

白杖SOS 合図知って

広島駅北口で呼び掛け



SOSシグナルの講演(左端)とともに白杖への理解を呼び掛ける会員たち

視覚障害のある人が困っていることを伝えるため白杖を掲げる合図を広めるキャンペーンが15日、広島市南区のJR広島駅北口であった。この日は国際団体が提唱する「白杖の日」。視覚障害者が駅のホームから転落する事故が各地で相次ぐ中、「白杖SOSシグナルをひろめる会広島」が初めて企画した。同団体の会員たち約30人が参加した。白杖を黒地に頭でつっぺんから50センチほど上げる「SOSシグナル」を表演。「点字ブロック上での歩きスマホはやめてください」と呼び掛けながら、白杖の役割を伝えるチラシ付きポケットティッシュ千個を通行人に

配った。受け取ったJR市市の主婦国本かづ子さん(70)は「困っている様子を知らず声掛けしたい」と話した。国によると、視覚障害者が駅のホームから転落した事故は、2013年度から5年間で302件あった。今月も東京で発生した。同団体の森井豊代表(右)は「悲しい事故を減らすため、視覚障害者にとって目の役割を果たす白杖への理解が広がってほしい」と願っていた。(小林可奈)

2019/10/15 | おひる一な | RCC 出演



白い杖SOSシグナルをひろめる会広島
SOSシグナルの普及により視覚障害者が全国どこへでも安全快適に出かけられるような環境作りを目指して活動しています。

活動報告
福祉学習：古田小学校・大芝小学校・ノートルダム中学校・海田南小学校
地域のイベント：海田社会福祉協議会サマースクール・真亀公民館祭り・広島電鉄市内電車祭り・西区福祉祭り・古田公民館祭り・南区ボランティア祭り・西区区民祭り・海田町福祉祭り・市民交流フェスタ
イオン府中店イエローシートキャンペーン9回参加(約47000円の助成額をいただく)
12月24日・25日「RCCラジオチャリティーミュージックソン」視覚障害者に音の出る信号機をと、募金活動を西区レクト店・南区ゆめタウンでアナウンサーの方々と一緒に募金活動を行いました。
2018年度から視覚障害者が危険な場面や災害時の避難所を想定し、配慮をしていただくと助かることの講演を始めました
古田公民館で「災害と障害者について」の活動が、文部科学省のホームページで紹介されました。

「10月15日白杖の日」広島駅北口自由通路で、視覚障害者にとって白杖の大切さを理解していただくために活動をしました。
横断幕2枚を掲げ、チラシを拡大したプラカードを前と後ろにぶら下げて2人が歩き、ティッシュにチラシを添えて1000個を30名で配布致しました。

8月2日、白杖SOSシグナルとサンキューカードがSNSで紹介され、3日間で15万回を超えるアクセスがあったそうです。

企業の担当者の方を集って頂き、視覚障害者・聴覚障害者・車いすユーザーが、障害についての理解を深めていただく講演を、行なえる講座を広島市社会福祉協議会にお願いをしていました。
「新型コロナウイルス」感染拡大の波が、押し寄せ始めた一歩前の2020年2月28日に車いすユーザーの方と視覚障害者として勉強会が行われました。
また、広島電鉄様では、2019年12月26日に社員研修(アイサポート運動の一環として)約150名の方に実施させていただきました。
その後、4月3日には、新入社員研修もさせていただきました。

活動成果
「白杖の日」のイベントは、1月から実行委員会を立ち上げて毎月会議を重ね、テレビ・ラジオ・新聞雑誌などすべてのマスコミにPRして、取り上げていただいたことで認知度が少し高まってきたように思えた。
協会や企業へ視覚障害者の理解を深めていただく事は、テレビ・ラジオ・新聞に取り上げられた事をPRしながら講座への参加をお願いしました。
また、広島電鉄様には、3年前から宮島線の電停にチラシを掲示していただくなどのお付き合いから、社員研修のお声がけをいただきました。

課題・展望
警備業協会・トラック協会・バス協会・ホテル協会・企業(広島電鉄、広交観光)は、広島市社会福祉協議会の「やさしさ発見プログラム」を通して講演を始めたばかりです。
県障害者支援課(アイサポート運動)を通して市内の協会・企業・団体に勉強会や講演をさせていただき理解を深めていただく努力が必要だと考えております。



広電社員研修にて